

2019年度男女共同参画センターはあもにい
第1回運営審議会 議事録

1. 2019年7月10日(水) 10:00~12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
 - ◆ 運営審議委員 (10名 五十音順)
井手志保委員 伊藤一敏委員 坂口京子委員 阪本恵子委員 中山敏子委員
那須円委員 伴哲司委員 広渡純子委員 宮村飛伸委員 八幡彩子委員
 - ◆ オブザーバー
熊本市市民局市民生活部男女共同参画課 課長 東原福美
 - ◆ 事務局
 - ・代表企業A 尾池千佳子(九州綜合サービス株式会社 代表取締役)
上村浩二(九州綜合サービス株式会社 専務取締役)
 - ・構成企業B 入杉三久(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)
河野正治(熊本産業文化振興株式会社 総務部長)
 - ・構成企業C 吉田稀世(有限会社ミューズプランニング 総務部)
館長:坂本ミオ、副館長(兼 総務管理課課長):堀井康希
舞台事業課・維持管理課:課長 安藤陽介
企画事業課:課長 伊井純子、係長 内田美香、村上雅子、山口美和
総務管理課:係長 杉卓倫、大久保章
 - ◆ 見学者
インターンシップ高校生 男女各1名
4. 会次第及び議事内容
 - (1) 代表あいさつ (はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
 - (2) 館長あいさつ (館長 坂本ミオ)
 - (3) 審議会委員および出席者紹介
 - (4) 審議
 - 議題1 はあもにい管理運営状況について 会館利用状況報告
 - 議題2 平成30年度実施事業について
 - 議題3 2019年度事業方針、事業計画について その他
5. 特記事項

2019年度より阪本恵子委員が新たに就任。議事録の署名に関しては、伴委員、井手委員が推薦され、審議会承認となった。

6. 議事録

● 議題1 質疑応答・審議

(八幡委員)

利用率と稼働率についての違いが、日数稼働率(利用率)と区分稼働率(稼働率)で分けたことでわかりやすくなった。来館者数は29年度の数字が非常に良かったため、それと比較すると30年度は減少傾向。しかし28年度までのベースで比較すると順調に伸びている。なぜ29年度は利用稼働率が高かったのか、分析をしていたら伺いたい。

(事務局 坂本)

29年度は復興需要のようなイベントや集会が多かったので利用につながったと思われる。29年度の月次報告内には、地震当初の4~6月、利用者が戻るかどうかという不安が綴られていたが、8月以降から利用者数が回復していることが記載されている。地震を乗り越え「またイベントをしよう」と思った人々が当館を選びご利用いただいたと考える。

(坂口委員)

子どもが小さい頃、幼児室が使える講座を多く使った。幼児室は他にない特徴であり、魅力的な講座も多かったため会館を利用していた。子どもも大きくなり、昨年度講座への参加はなかったが、防災ポイントBOOKや実施講座を見ると、男女共同参画についての学びが多いと感じる。主婦とは違う視点を教えてくれるのがありがたい。広報の仕方・見せ方がとても良い。情報発信力として大いに期待している。

(伊藤委員)

月1回来館しているが、エントランスが暗い。明るくしたほうが会館に活気があると感じる。

(事務局 安藤)

熊本市男女共同参画課および設備課にLED化を要望し、現在計画中。機械配線の老朽化で、電球を変えても改善が困難な状況。できるだけ早く皆様によりよい空間を提供したいと現在進行中である。

(伊藤委員)

ぜひお願いしたい。明るく開けた会館運営を期待している。

(広渡委員)

来年開館30周年。お金はかかるだろうが、エントランスを明るく魅力的なスペースにしてほしい。それだけでは利用者増にはならないかもしれないが、エントランスが明るく魅力的に感じられると来館者の会館に対する印象もさらに良くなるのではないかと。

(八幡委員)

利用者数は伸びているが、稼働率が低下している。メリットとしては、利用者がゆったり使えるが、収益として減少といえる。収支の面ではいかがか。

(事務局 坂本)

利用者数増加の理由の一つとして、ホール催事は多いが、その他貸室の利用が減っていることがある。貸室の利用増加は今期の課題。先述のLED化も含め、経年劣化に伴う部屋の状況、近隣の新しい施設の開館といった状況下でどのようにお客様に喜んでいただけるか、もちろん、以前から清潔さ、心配りに努めているが、プラスアルファは模索中である。もし良い案があれば、アドバイスいただきたい。

幼児室についてだが、熊本地震後、防災出前講座で外部に出ていく機会が増えている。それに伴い資格取得講座等の館内講座が減り、託児が減っている。また、託児付きの講座を開いても、託児利用者が減っている。保育サービスの充実により館外に託児所を確保している保護者が多いこと、少子化の影響もあるかもしれない。せっかく幼児室があるので、従来とは異なる幼児室の運営も検討していく。

(八幡委員)

テレワーク事業の推進も目玉事業だったと記憶している。コワーキングスペースの利用状況はいかがか。

(事務局 坂本)

事業概要 50P に、テレワーク推進事業のページがある。当館は非常に早い段階で設置し、毎日誰かが利用している。熊本日新聞社さんが好立地にスペースを新設するとの記事があったが、それぞれの特性・立地にあった機能のアピールをしていくことが必要と考える。

● 議題 2、3 質疑応答・審議

(八幡委員)

従来のはあもにいの講座の編成方針に比べると、新しい講座や、以前よりもさらに充実した企画が増えたように感じる。開催講座の方向性に「SDGs」が入っていた。男性向け「メンズカレッジ」の新設、7ページ(6)の項目は特に充実した方針が打ち出されたように感じる。こうした背景には今年度の熊本市男女共同参画の推進計画の刷新の影響もあるように思う。東原課長、「第2次熊本市男女共同参画基本計画」の策定のポイント・重点的に取り組むべき点についてご説明いただきたい。

(熊本市男女共同参画課 東原課長)

基本計画はH20年度制定された男女共同参画推進条例に基づいて策定しているが、国・県の計画を踏まえ、「性的マイノリティへの配慮、貧困・高齢・障がい等(含む外国人)による困難を抱えた女性への配慮」を盛り込んでいる。大きな考え方は以前と変わらないが「多

様性の尊重」として「男女が」→「だれもが」と変え、策定。

(「第2次熊本市男女共同参画基本計画 概要版」に準じて説明)

性的マイノリティへの支援・社会参画促進については、今年4月、国内12番目にパートナーシップ宣誓制度を設けた。昨年度、職員向けの「LGBTなどの性的マイノリティサポートハンドブック」を作成した。今年度は事業者向け・医療従事者向けに作成を計画中。防災については、熊本市女性職員の手記集である「平成28年熊本地震 熊本市女性職員50の証言」を発行。各所から問い合わせがあっている。危機管理防災総室・人事課と連携し、男女共同参画の視点での防災に役立てていただけるよう働きかけを行いたい。

(八幡委員)

ちなみに施策の5番には、はあもにいの機能の充実を掲げていただいております、女性活躍推進法とDV防止法を組み込む熊本市の方針に沿った講座が開かれているようですね。

(那須委員)

「防災ポイントBOOK」発行を楽しみにしていた。全国発送していると伺った。非常に充実した内容なので、もっと活用を増やしてほしい。校区ごとの防災団体、自治会、学校図書館や市民センター等、子どもや市民が手に取りやすい場所の設置を望む。行政とも連携しながら普及してほしい。1,500部は少ないと感じたが、数はどのようにして決めたのか。1500部のこの本を今後どのように活用していくかお尋ねしたい。

また、新しい試みのメンズカレッジは、いずれも平日の昼に開催、中間管理職の参加を望むということだが、この日程では仕事をしている人の参加は難しいのではないかと。夜間や週末の開催にはならなかったのか。

(事務局 坂本)

「防災ポイントBOOK」は当初、防災出前講座用として、2年間で使う想定で数字を決めた。発行後の反響は大きく、部数が足りずにホームページに内容をあげたところである。学校への配布は、とてもありがたいご意見だと感じた。ちなみに使用の想定を2年としたのは、情報の刷新、中身のマイナーチェンジを前提とした作成であるため。また予算の都合もある。

メンズカレッジはあえて平日の昼に日時を設定した。個人の時間を使うのではなく、企業研修の一環として、勤務時間内で研修を受けてほしいと思った。こういった内容の講座は、自発的な参加より、まずは企業から「行って来い」と言われることが多いのではないかと考えた。情報紙等に掲載するとともに、企業経営者へ直接ご案内している。ぜひ審議委員の周りの方にも伝えていただきたい。

(八幡委員)

今後の改訂版増刷の件、男性向け講座の夜間開催はぜひ検討していただきたい。

(伊藤委員)

2038年になると黒髪校区は80歳以上が500人。彼らをどう救済するかが町内の課題。町内に住む小学生は現在12人のみ。少子化を感じる。また、高齢化・空き家増加も実感する。高齢者対策は国をあげて注力していただきたい。

(八幡委員)

地域リーダーの養成、地域に根差した取り組みも強化していけたらいいですね。

(宮村委員)

昨年度の「これからの男性の生き方を考える コーヒーの入れ方講座」は、参加者が多くて驚いた。座談会もいろいろな意見が飛び交い、退職後の生活の話等で盛り上がったので継続して行ってほしい。今年度も極力講座に参加したい。メンズカレッジは、どうも内容が興味をそそらない。ウィメンズカレッジの内容は女性の内面磨きの講座もあり、キラキラしている要素があるが、メンズカレッジは内容が真面目すぎる。今回はお試し・無料ということもあり仕方がないかもしれないが、男性にも「スーツの着こなし」「時計について」等楽しみのある講座があると良いと思う。

男性の自分も、ウィメンズカレッジに参加してみたいが、講座中1回でも男性参加OKにならないか。メンズ・ウィメンズの合同開催はできないか。

(事務局 坂本)

来年度はメンズとウィメンズの講座を一部クロスさせることを試したいと考えている。そのためにもまずはメンズカレッジを成功させる必要がある。

(宮村委員)

女性の修了生は事業概要掲載できれいに写真を撮っているが、男性修了生も写真できれいに撮ってもらえるか。

(事務局 坂本)

今後検討していきたい。

(井出委員)

はあもにいでの無料の出前講座は防災以外にはないのか。DV 講座やテレワークは無料で開催はできないのか。

(事務局 伊井)

若年層に対するDV防止講座はいずれも無料。主に高校生を対象に、熊本市立・私立問わずこちらからお声掛けし、年1回開催。今後も各所と連携を深めたいと考えている。

テレワークに関しては、出前講座はまだ考えていない。まずは企業がテレワークの従業員を雇用する体制を作っていかなければならないため、企業への啓発を優先している。

(熊本市男女共同参画課 東原課長)

男女共同参画課では、DV、性的マイノリティ、ワーク・ライフ・バランス等の出前講座を行っている。会場・時間を決めていただければ、無料で講師を派遣している。21時以降の開

催はできないが、希望があれば男女共同参画課のHPを確認してほしい。

(八幡委員)

ご要望があれば、それぞれのフォームで申し込みを。

(坂口委員)

幼児室利用の減少については、産後復職までの1年間の託児や、父親の託児参加へのフォローなどを対象として視野に入れてはどうか。特に産後の母親は不安定なので、フォローをしてもらえたら。

貸室については、定年後60代の意識に訴える企画や、ウィメンズカレッジOG会のように、過去のインターンシップ生の年齢を超えた交流会があるといいのでは。世代を超えた意見交換、これからの世代にとっていい刺激になると思う。

また、「おもしろい、楽しい」は大事だと思う。他県の知事が妊婦体験をする映像があったので、そういったおもしろくてインパクトのある仕掛けが「はあもにい版」としてあるといいと思う。また、カレッジシリーズを増やしてほしい。

シニアのコワーキングについて、ipadひとつでどこにでも行ける、交流できるという話があったので、シニア世代の掘り起こしなどもしてほしい。

フィンランドの図書館に、ジェンダーフリーのトイレができたというニュースを聞いた。フィンランド国内でも抵抗はあるようだが、トイレの垣根をなくしたことはインパクトがある。そういうインパクトから少しずつ浸透していく仕方もあると思う。

(八幡委員)

今後の方向性としては議論するところもあるでしょうが、ご提案ありがとうございます。

(阪本委員)

初めて参加しました。カレッジが男性と女性が分かれているのはどうなのか？と考えながら聞いていたところ、宮村委員の男性女性合同の講座に対しての発言があり、同感と思った。私の所属先の青年部・女性部も同様の意見があるのだが、男性は女性のすることが楽しく見えるようである。別々で講座をしても、女性に見てほしい、男性に見てほしいというものがあるので、ぜひ一緒に行ってほしい。

(伴委員)

「防災ポイントBOOK」は、災害フェーズごとに、体験をもとにしたアドバイスを的確・シンプルに書かれていて良いと思った。読む人が解決策を考える欄があり、参加型である点も非常に良い。ホームページでのPDF公開をツイッター等のSNSで発信し周知・活用してほしい。SNSへのアクセスは、ぜひホームページの目立つところにおいてほしい。

メンズカレッジも興味深いと思う。可能な限り仕事を調整して参加したいと思う。ウィメンズは地域リーダーの養成というクリアな目標がみられる。メンズはこれからの組み立てとなるようだが、私としては、「地域で活躍できる男性の育成」を目標の1つに挙げていただ

きたい。定年後のプランは地域に飛び込んでいかななくてはならないと考える。なかなかそれを出来る人は少ない。昔のキャリアをひきずり、うまく地域となじめない男性も多いと聞く。定年後も地域の中で生きがい・生活の成立等、新たな役割を確立できる男性像・男性の育成も視野に入れてほしい。

(中山委員)

男女共同参画への取り組みは20歳を超えてからはなかなか難しい。中学校生では難しいと聞いたので、自由教育になる高校生・大学生から取り組むのが一番いい。そういう企画をもっと増やしてほしい。それを熊本市のほうでも行ってほしいがいかがだろうか。

(熊本市男女共同参画課 東原課長)

学習指導要領のなかに、「男女共同参画」が組み込まれている。男女共同参画に対する学びは、以前とは違う。30代と50代ではかなり意識も異なる。教育委員会と連携し、これからもっともっと推進していきたい。

また、市で受けるDVの相談は全国同様、高い傾向にある。こういった面からも早期のDV予防教育が重要。子どもには難しいかもしれないので、今年度は中学校の保健室の養護教諭へ働きかけを行う。モデル校数校へ2月(性教育月間)頃、デートDVの予防教育を予定している。

(八幡委員)

行政の場でどういうことを課題としているのか学生が学ぶ機会があると良いですね。

(中山委員)

現在の意識改革はどうなっているかを聞いたかったので、話が聞けて良かった。

(広渡委員)

第2次基本計画は「男女」という言葉をこえて「誰もが」に変えている。ジェンダー平等から「多様性」を含めるようになって良いと思う。はあもにいの仕事が増えるかもしれないが、「多様性の尊重」を考えると、黒髪地区は留学生が非常に多いので、そういう視点も必要になるのではと感じた。「防災ポイントBOOK」による防災出前講座を今後も続けていただきたい。高齢者・障がい者・外国人に関する記載を設けてあるが、改定をするのであれば、次回はもっと外国人のところも増やしてほしい。NHKで、日本人と外国人が二分されている熊本市の避難所の様子が繰り返し流れた。日本人は言葉が通じないと思って話しかけないが、避難した外国人は「日本語で構わないから話しかけてほしかった」と。震災当時はそこまで考えが及んでいなかったが、今後はそういう視点も取り入れていってもらいたい。

(八幡委員)

男性向けのメンズカレッジのご意見が多かった。男女共同参画のこれからの企画のあり方についてご提案あった。私からは2点。「SDGs」を踏まえた取り組みについてだが、今後の企画に対しての方針なのか。それとも会館の運営として目に見える形にしていくということ

なのか。また、ウィメンズカレッジ OG が現在どのような場で活躍しているのか。

(事務局 伊井)

SDG s を講座へ取り入れたいと思いつつも、企画講座自体に取り組めていない現状である。理由の一つに地域での講師を見つけられていない。受講生の中に SDG s の市民活動をしている方がいるので、つながりを増やし情報を得たいと思っている。今後早急に対応していきたい。

(事務局 坂本)

OG 会についてだが、昨年夏の段階では、審議会委員 5 名。なかには研修会講師もいる。その他、作業療法士協会、放課後等デイサービスで講話を行う方や、情報誌はあもにいの編集委員になった方もおられ、取材を通して男女共同参画を学ばれている。熊本県宅建協会中央支部女性の会会長就任のように地域・職域のリーダーになれる方もいる。OG 会ではそういった方が、小さな講習会での講師となり、お互いに学びあう関係をつくっていかないと考えている。

また、メンズカレッジについてだが、初年度である今年度の目標は「女性や性的マイノリティが企業で活躍できる環境を整えるための啓発」と考えている。

(熊本市男女共同参加課 東原課長)

ウィメンズカレッジ修了生は、いろいろな情報がインプットされ、これからアウトプットをしていただく段階にきている。修了生の方にはネットワークを形成し、市や県、企業にご自身の考えを発表していただきたいと考えている。女性活躍推進事業において、新たに女性のネットワークを持つ方々が企業・行政に政策提言をしていただく場を今年度設ける予定(1月)。講演会后、政策提言の発表会と子育て優良企業の発表会の3段階を計画。

(八幡委員)

ということは、ウィメンズカレッジの受講生もご自身の学びを発表することが可能ということか。

(熊本市男女共同参画課 東原課長)

はい、そういうことです。

(伊藤委員)

最後に学生の方に感想を聞きたい。

(インターンシップ生)

DV は身近にあると感じている。小学生から学習の場があってもいいと思う。